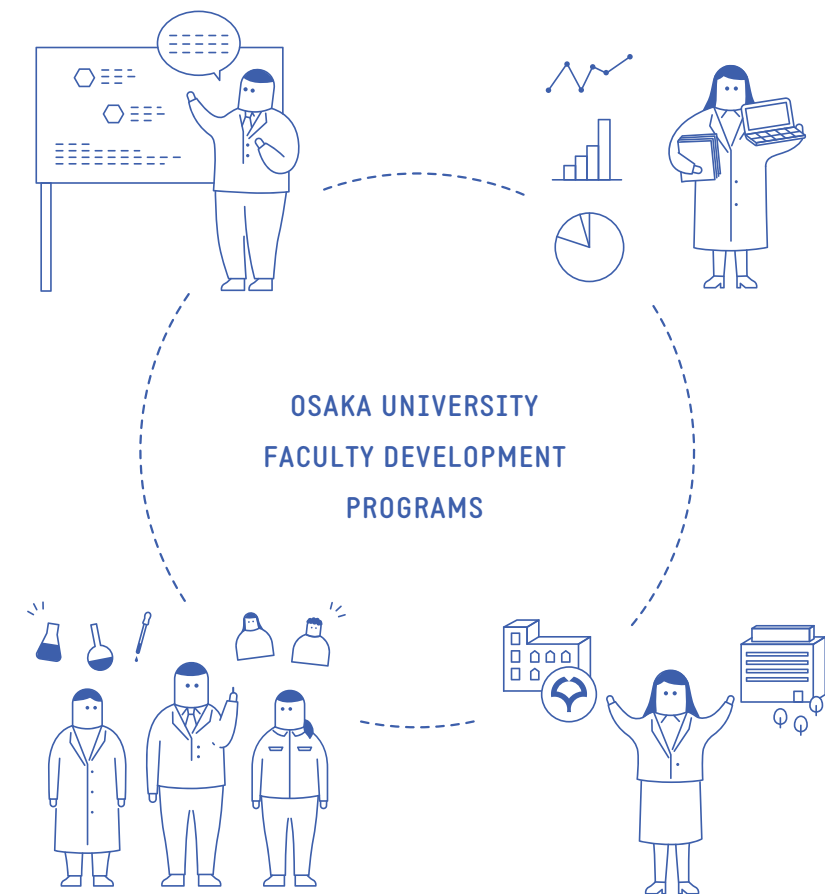


大阪大学教員のための

ファカルティ・ディベロップメント プログラムガイド



お問い合わせ先

各FDプログラムの詳細については、
開催部局にお問い合わせください。



発行元

大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部
〒560-0043 豊中市待兼山町1-16 豊中キャンパス
全学教育総合棟Ⅱ4階417



2018年度

10月～3月

目次

メッセージ	3
概要	4
研修プログラム一覧	6
プログラム詳細	
・教育能力開発プログラム	8
・研究能力開発プログラム	14
・社会学連携能力開発プログラム	17
・マネジメント能力開発プログラム	19



メッセージ

大阪大学教員の皆様へ

近年、大学はさまざまな「改革」を社会から求められています。中でもとりわけ重要なことは、高等教育機関としての大学が優れた人材を育成し、社会に貢献していくことです。そのためには、教育を担う立場にある教員に高い教育・研究能力を備えることが必要だと思います。

本学は2017年10月以降、新たに採用された教員に対して、教育や研究に関する30時間の研修プログラムの受講を必須化することにしました。この取り組みによって、大学の社会に対する説明責任を果たすと共に、本学の各教員に、教員として必要となる能力を身につける権利を保障するものです。

もとより本プログラムガイドに掲載されているセミナーや研修自体は、新任教員だけではなく、全教員を対象として設計されています。本学の教育、研究、社会学連携、マネジメントの全ての領域で高いパフォーマンスを実現するため、できるだけ多くの教員のみなさまにご参加いただきたいと考えています。

新任教員の皆様へ

本学では、従来から教育指導・学習支援・学生支援能力の向上を図り、質の高い教育・学生支援活動の維持を目的として、FD（ファカルティ・ディベロップメント）に積極的に取り組んでいますが、本学の教育、研究、社会学連携、学内運営の取組をさらに向上させるため、新規採用する教員に対して本学の教員として身に付けておくべき基本的な知識やスキルを習得する機会を提供することを目的に、新任教員研修を必須化しています。具体的には、全学及び各部局が実施する各種教員向け研修について、新規採用される講師・助教等を対象に、採用後3年間で30時間の研修受講を必須化することにより、教育、研究、社会学連携及びマネジメント能力の習得を図るものです。

2018年度後期のプログラムも多岐にわたる研修が開講されます。本学の教員として教育研究に携わるうえで有益なものですので、積極的な受講をお願いします。



理事・副学長(教育担当)
小林 博司

大阪大学ファカルティ・ディベロップメント研修プログラム

大阪大学はこれまでFD（ファカルティ・ディベロップメント）に取り組んできました。プログラムは、教員として必要な ①教育能力、②研究能力、③社会学連携能力、④マネジメント能力の4つのカテゴリーに分けて整理されています。伸ばしたい能力にあわせてプログラムガイドをご活用ください。

教育能力

開発プログラム

教育技法や教材作成方法、評価方法、学内の授業支援システム（CLE）の操作方法、多様な学生への理解など、阪大生の学習を促すための授業設計に関するプログラムです。



マネジメント能力

開発プログラム

薬品や廃液の取扱など安全衛生に関わる内容や、各種コンプライアンスに関わる内容など、組織の管理運営能力の開発を目指すプログラムです。

研究能力

開発プログラム

学術情報の迅速かつ効率的な収集方法や発信方法、厳守すべき研究倫理など、研究を行う上で必要な能力開発を目指すプログラムです。

社会学連携能力

開発プログラム

緒方洪庵が開いた適塾や大阪大学の歴史など本学への理解を深めるプログラムや、実社会と連携した教育や研究の進め方についてのプログラムです。

大阪大学全学FDプログラム受講証明制度

大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部（旧：教育学習支援センター）では、2014年度から全学FDプログラムの受講証明制度を実施しています。受講者は大阪大学 CLE において受講時間数（FD ポイント）と、受講した時間数によって色が変わるFD バッジを確認することができます。また、教育学習支援部では、受講者の申し出に応じて、30 時間ごとに修了証明書を発行します（上限 120 時間）。

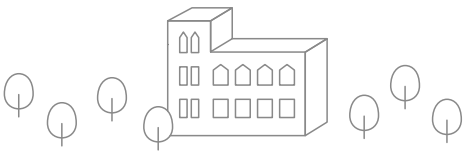
FDバッジの確認方法



FDバッジの種類



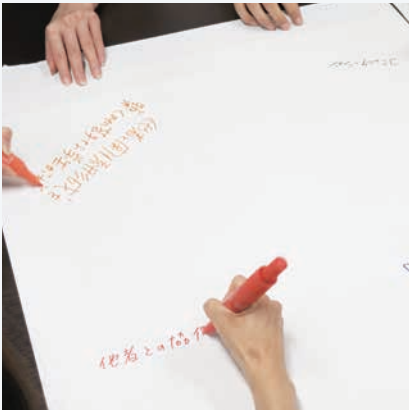
1. CLE に阪大 ID でログインする。
2. コミュニティから「教育学習支援 commons (TLSC) FD」をクリックする。
3. 左側の「FD バッジの確認」をクリックする



研修プログラム受講必須時間数

新任教員の皆さんは以下の通り各プログラムを受講してください。

- ▶ 教育能力 開発プログラム 10時間以上
- ▶ 研究能力 開発プログラム 4 時間以上
- ▶ 社会学連携能力 開発プログラム あわせて6 時間以上
- ▶ マネジメント能力 開発プログラム あわせて6 時間以上



研修プログラム一覧〈平成30年度下期(2018.10～2019.3)開催分〉

※掲載内容は8月17日時点の情報です。
最新情報は各開催部局にお問い合わせいた
だくか、学内ポータルサイト「マイハンダイ」
(FD 関係) にてご確認ください。



教育能力
開発プログラム



研究能力
開発プログラム



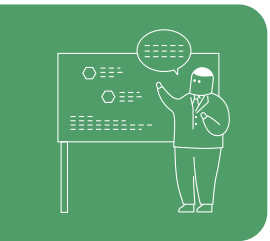
社会学連携能力
開発プログラム



マネジメント能力
開発プログラム

カテゴリ	掲載 ページ	開催部局 等のみ	研修題目 (研究テーマ/タイトル)	場所	日時	時間数	募集定員	使用言語	開催部局
10 月									
マネジメント	P.19	○	コンプライアンス講習会	吹田	10 月 10 日 13:30-14:30	1	250 名	日本語	工学研究科
教育	P.8	—	アクティブ・ラーニング	豊中	10 月 11 日 12:30-14:30	2	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
マネジメント	P.19	○	平成30年度FD講演会・研修会	豊中	10 月 11 日 17:30-18:30	1	約100 名	日本語	文学研究科
教育	P.8	—	オンライン学習教材作成法	吹田	10 月 15 日 17:00-18:30	1.5	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
教育	P.9	—	グループ学習	豊中	10 月 18 日 14:40-16:40	2	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
研究	P.14	—	オンライン・リソースを活用した英語論文投稿セミナー	吹田	10 月 19 日 14:40-16:10	1.5	120 名	日本語	経営企画オフィス、 附属図書館
社会学連携	P.17	—	産学官民連携の協創まちづくりにおける大学の役割	豊中	10 月 26 日 16:30-18:00	1.5	15 名	日本語	CO デザインセンター
教育	P.9	—	授業での主体的学びを促進するアクティブラーニング 授業メソッド体験ワークショップ	豊中	10 月 27 日 13:00-16:00	3	50 名	日本語	CO デザインセンター
研究	P.14	○	研究倫理教育及び研究費不正使用防止に関する説明会	吹田	10 月 又は 11 月	1.5	130 名	日本語	産業科学研究所
マネジメント	P.19	○	コンプライアンス講習会	吹田	10 月～11 月頃 (日時未定)	1 程度	約 60 名	日本語	蛋白質研究所
11 月									
社会学連携	P.17	—	研究・教育のアウトリーチ活動における 大学博物館の活用	豊中	11 月 8 日 13:00-14:30	1.5	30 名	日本語	総合学術博物館
教育	P.10	—	探究学習	豊中	11 月 8 日 14:40-16:40	2	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
教育	P.10	—	学習評価法	豊中	11 月 12 日 12:30-14:30	2	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
教育	P.11	—	ルーブリック評価	豊中	11 月 12 日 14:45-16:45	2	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
マネジメント	P.19	—	非化学系のための化学薬品取扱講習	豊中	11 月 12 日 10:30-12:00	1.5	約 50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.19	—	非化学系のための化学薬品取扱講習	吹田	11 月 12 日 13:00-14:30	1.5	約 50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.20	—	高圧ガス・液体寒剤に関する安全講習 (低温センター豊中分室編)	豊中	11 月 12 日 13:00-14:30	1.5	約 50 名	日本語	安全衛生管理部
研究	P.14	○	微研職員研修1：Academic English for RIMD Researchers	吹田	11 月 12 日	1.5	20 名	English	微生物病研究所
マネジメント	P.20	—	大阪大学高圧ガス管理支援システム (OGCS) 利用講習	吹田	11 月 13 日 14:40-15:40	1	約 50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.20	—	大阪大学高圧ガス管理支援システム (OGCS) 利用講習	豊中	11 月 14 日 11:00-12:00	1	約 50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.20	—	電気コンセント・配線およびレーザー取扱いに 関する安全講習	吹田	11 月 14 日 11:00-12:00	1	約 50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.20	—	大阪大学薬品管理支援システム (OCCSIII) の利用について	吹田	11 月 14 日 13:30-14:30	1	約 50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.21	—	実験系廃液・排水の取扱い	吹田	11 月 14 日 14:40-15:30	0.83	約 50 名	日本語	安全衛生管理部
研究	P.14	—	研究・教育の推進に資する図書館の利活用	豊中	11 月 14 日 14:40-16:10	1.5	80 名	日本語	附属図書館
教育	P.10	—	探究学習	吹田	11 月 15 日 12:30-14:30	2	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
教育	P.11	—	研究室不登校の学生の心のケアについて	吹田	11 月 15 日 13:30-17:30	4	30 名	日本語	工学研究科
マネジメント	P.20	—	大阪大学薬品管理支援システム (OCCSIII) の利用について	豊中	11 月 15 日 13:30-14:30	1	約 50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.21	—	実験系廃液・排水の取扱い	豊中	11 月 15 日 14:40-15:30	0.83	約 50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.21	○	言語文化研究科ハラスメント防止研修会	豊中	11 月 15 日 14:40-15:40	1	未設定	日本語	言語文化研究科
教育	P.11	—	講義収録システム活用法	豊中	11 月 15 日 16:20-17:50	1.5	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
研究	P.14	○	微研職員研修1：Academic English for RIMD Researchers	吹田	11 月 19 日	1.5	20 名	English	微生物病研究所
教育	P.12	—	シラバス作成法	吹田	11 月 22 日 14:40-16:40	2	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
研究	P.15	○	研究教育フォーラム (大阪大学文学部創立記念フォーラム「文学部のチカラ、再発見。」)	豊中	11 月 23 日 13:00-15:45	2.5	約 200 名	日本語	文学研究科
教育	P.10	—	学習評価法	吹田	11 月 26 日 12:30-14:30	2	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
教育	P.11	—	ルーブリック評価	吹田	11 月 26 日 14:45-16:45	2	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部

カテゴリ	掲載 ページ	開催部局 等のみ	研修題目 (研究テーマ/タイトル)	場所	日時	時間数	募集定員	使用言語	開催部局
11 月									
社会学連携	P.17	—	大阪大学の歴史	豊中	11 月 27 日 15:30-17:00	1.5	40 名	日本語	アーカイブズ
教育	P.12	—	シラバス作成法	豊中	11 月 29 日 14:40-16:40	2	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
12 月									
マネジメント	P.21	○	コンプライアンス講習会	吹田	12 月 6 日 13:30-14:30	1	250 名	日本語／ English	工学研究科
教育	P.8	—	オンライン学習教材作成法	豊中	12 月 6 日 14:40-16:10	1.5	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
教育	P.11	—	講義収録システム活用法	吹田	12 月 11 日 14:40-16:10	1.5	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
マネジメント	P.21	—	未定(障がい者問題に関するテーマの予定)	吹田	12 月又は 1 月頃 (日程未定)	2	100 名	日本語	人権問題委員会
マネジメント	P.21	○	ハラスメント問題対策のための研修会	豊中	12 月	1 (予定)	100 名	日本語	文学研究科
1 月									
教育	P.8	—	アクティブ・ラーニング	吹田	1 月 10 日 12:30-14:30	2	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
教育	P.9	—	グループ学習	吹田	1 月 10 日 14:40-16:40	2	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
教育	P.12	—	双方向型授業導入のための基礎	豊中	1 月 10 日 15:30-18:00	2.5	40 名	日本語	CO デザインセンター
研究	P.15	—	日本の研究助成金制度及び URA による研究支援	吹田	1 月	1.5	30 名	English	経営企画オフィス
社会学連携	P.17	○	プレスリリース講習会	吹田	1 月 (予定)	2	40 名	日本語	産業科学研究所
2 月									
教育	P.12	—	自閉症スペクトラム障害のない、 その傾向にある学生への対応について	吹田	2 月 4 日 13:30-16:30	3	30 名	日本語	工学研究科
マネジメント	P.22	○	ハラスメント防止に関する講演会	吹田	2 月下旬 14:00-15:30	1.5	50 名	日本語	産業科学研究所
定期・不定期・複数月開催									
教育	P.8	—	ワークショップ「大学教育改革私案をつくる」	豊中	10 月 1 日 12 月 17 日 2 月 12 日 各日 9:00-12:00	3× 3 回	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
教育	P.9	○	FD 研修会	吹田	10 月 25 日 12 月 25 日 2 月 21 日 (予定)	1 程度 ×3 回	60 名	日本語	蛋白質研究所
教育	P.10	—	相互授業参観プログラム	豊中	11 月 1 日・2 月 6 日 各日 13:00-14:30 及び 11 月 2 日～2 月 5 日 に随時相互参観を実施	10	8 名 (最少催行人数: 4 名)	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
研究	P.15	○	蛋白研コロキウム	吹田	1 月 17 日 3 月 14 日 (予定)	各 0.5 程度	60 名	日本語	蛋白質研究所
教育	P.12	—	iPad Café	豊中	原則毎月 第 2 木曜日 16:30-18:00	各 1.5	30 名	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
教育	P.13	—	コンサルティングサービス	豊中	随時	1× 1-3 回	未設定	日本語	全学教育推進機構 教育学習支援部
研究	P.16	○	アドバンストセミナー	吹田	毎月 1 回 (3 月除く) 16:00-17:00	各 1	未設定	日本語／ English	微生物病研究所、 免疫学フロンティア研究センター
研究	P.16	○	微研集談会	吹田	毎月第 4 火曜日 (1 月除く) 16:00-17:00	各 1	未設定	日本語／ English	微生物病研究所、 免疫学フロンティア研究センター
未定									
教育	P.13	—	データ科学 in 情報活用基礎	豊中	未定	1.5	30 名	日本語	数理・ データ科学教育研究センター
研究	P.16	—	研究を進めるにあたっての外部資金獲得 および本学における支援制度等について	吹田	未定	1.5 (予定)	未設定	日本語	経営企画オフィス
社会学連携	P.18	—	新任教員向け適塾見学会～阪大の歴史を辿る～	大阪市	未定	3	25 名	日本語	適塾記念センター
社会学連携	P.18	—	適塾から受け継ぐレガシー - 歴史・精神・文化財 -	未定	未定	2.5	40 名	日本語	適塾記念センター
社会学連携	P.18	—	微研職員研修1：研究成果の社会実装を考える	吹田	未定	各 3	80 名	日本語	微生物病研究所
マネジメント	P.22	○	キャンパスハラスメントに関する研修会	箕面	未定	1	未設定	日本語	言語文化研究科・ 外国語学部
マネジメント	P.22	○	蛋白研防災安全講習会	吹田	未定	1 程度	約 60 名	日本語	蛋白質研究所



教育能力 開発プログラム

教育技法や教材作成方法、評価方法、学内の授業支援システム(CLE)の操作方法、多様な学生への理解など、阪大生の学習を促すための授業設計に関するプログラムです。

◎受講にあたり、特別な配慮が必要な場合、開催2週間前までにご連絡ください。
◎本プログラムへの参加は「大阪大学FDポイント」に反映されます。ご自身のFDポイントはCLE上で確認できます。(FDポイントの確認方法はP.5をご参照ください)

ワークショップ「大学教育改革私案をつくる」

講師：兼松泰男(理学研究科 附属基礎理学プロジェクト研究センター 教授)

豊中 10月1日 9:00-12:00
12月17日 9:00-12:00
2月12日 9:00-12:00
※原則として3回全て参加

〈キーワード〉

カリキュラム、実践・実験・演習、課外の学び、研究と学び、アクティブラーニング、プロジェクトベースラーニング、STEM 教育、作ることで学ぶ、創造性、アントレプレナーシップ

〈概要〉

- 1日目：自身の関係した教育についての振り返りをもとに、構成メンバーがお互いを知る。チーム形成。
- 2日目：調査、分析に関する報告。改革提案に関する方向性討議。
- 3日目：大学教育改革提案発表。

〈研修時間外に求められる課題〉

チームごとの自主的な取り組みを推奨する

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名
 3時間
×3回
 日本語
 対面

アクティブ・ラーニング

講師：家島明彦(全学教育推進機構 講師)
山口和也(全学教育推進機構 教授)
西森年寿(人間科学研究科 人間科学専攻 教授)

豊中 10月11日 12:30-14:30
吹田 1月10日 12:30-14:30

〈キーワード〉アクティブ・ラーニング、教育技法

〈概要〉

アクティブ・ラーニングとは、学生の学習意欲の向上や汎用的能力の育成に有効な教授・学習法の総称です。本研修では、大学におけるアクティブ・ラーニングの導入背景や、授業にアクティブ・ラーニングを取り入れる方法を説明します。また、学生の主体的な学習活動を促す様々な教育技法を組み合わせアクティブ・ラーニング型授業をデザインするワークを行います。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名
 2時間
 日本語
 対面

オンライン学習教材作成法

講師：権藤千恵(全学教育推進機構 特任研究員)

豊中 12月6日 14:40-16:10
吹田 10月15日 17:00-18:30

〈キーワード〉オンライン学習、e-ラーニング

〈概要〉

オンライン学習教材を活用して対面授業と組み合わせた反転学習やブレンド型学習を導入する大学が増えています。本セミナーでは、効果的にオンライン学習教材を作成するために基本的な知識、効果的な活用事例、オンライン学習教材の作成方法を紹介します。

※当日はノートパソコン (Windows もしくは Mac) をご持参下さい

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名
 1.5時間
 日本語
 対面

グループ学習

講師：西森年寿(人間科学研究科 人間科学専攻 教授)
山口和也(全学教育推進機構 教授)
大山牧子(全学教育推進機構 助教)

豊中 10月18日 14:40-16:40
吹田 1月10日 14:40-16:40

〈キーワード〉グループ学習、授業デザイン、教育技法

〈概要〉

アクティブ・ラーニング型の授業が注目されています。アクティブ・ラーニング型の授業で多く導入されるグループ学習には、様々な種類がありますが、学生の深い学びをもたらすためには、目的に応じた方法を導入することが重要です。自らの授業の中でどのようにとりいれて良いのかお困りではないですか？本セミナーでは、大学の授業の中で実施され得る様々な種類のグループ学習と、その特徴を説明すると共に、授業の中で目的に応じてどのように導入するかを考えます。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名
 2時間
 日本語
 対面

限定 蛋白質研究所構成員のみ対象

FD 研修会

講師：各回によって異なる

吹田 10月25日, 12月25日, 2月21日 (日程は変更となる可能性あり、時間未定)

〈キーワード〉教育、研究、蛋白質

〈概要〉

学内外から様々な分野の研究者やFD担当専門員を招聘し、研修会を開催します。年数回、場所は蛋白質研究所本館1階講堂で行います。若手研究者として大学院生も対象となる場合があります。

《問合先：蛋白質研究所 庶務係》tanpakuken-syomu@office.osaka-u.ac.jp》

60名
 各回
1時間
程度
 日本語
 対面

授業での主体的学びを促進する アクティブラーニング授業メソッド 体験ワークショップ

講師：松繁寿和(国際公共政策研究科 比較公共政策専攻 教授)

豊中 10月27日 13:00-16:00

〈キーワード〉

アクティブラーニング、学生の主体性開発、ディスカッションの活性化、問題解決ケースメソッドPBL、ジェネリックスキル育成

〈概要〉

主体性開発メソッド「タクナル」(リアセック社刊)を教材に、

1. プログラム体験：ディスカッション型・プロジェクト型の2種類プログラムを体験します。
2. メソッド研究：体験振り返り、各ケースの目的や仕組み、学生達が積極的に取り組み、議論を通じた問題解決力が伸びる仕掛けがどこにあるか、普段の授業にも使えるメソッドを検討します。

《問合先：CO デザインセンター》seminar@cscd.osaka-u.ac.jp》



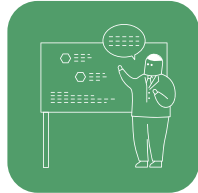
50名
 3時間
 日本語
 対面

定員

受講時間

使用言語

研修形式



教育能力 開発プログラム

相互授業参観プログラム

講師：根岸千悠（全学教育推進機構 特任助教）

豊中 11月1日 13:00-14:30
2月6日 13:00-14:30
及び11月2日～2月5日に随時相互参観を実施

〈キーワード〉相互観察、自己省察、学際的視点

〈概要〉

専門分野の異なる 3～4 名でチームを組み、お互いに授業参観及び振り返りを行います。プログラムは次の 3 つで構成されています。初回と最終回は集合研修となります。

- ・初回（11/1）：授業参観の意義の確認、チームメンバーの決定、今後の予定に関するミーティング
- ・中間（11/2～2/5 間で随時）：チームメンバーの授業参観及び振り返り（2～3 回）、他のチームメンバーへの授業公開及び振り返り
- ・最終回（2/6）：フォローアップ・リフレクション

* 本プログラムは、St.Louis Community College の Anne Wessely 氏が最初に開発した Teaching Squares をモデルとしており、現在多くの北米の大学やカレッジで実施されているものです。

〈研修時間外に求められる課題〉

チームメンバーとのスケジュール調整等

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> [✉tlsc@celas.osaka-u.ac.jp](mailto:tlsc@celas.osaka-u.ac.jp)》



8名
(最少催行人数：4名)
 10時間
 日本語
 対面

探究学習

講師：佐藤浩章（全学教育推進機構 准教授）

豊中 11月8日 14:40-16:40
吹田 11月15日 12:30-14:30

〈キーワード〉問い、探究、アクティブラーニング

〈概要〉

学生の主体的な学びを促進するためには、探究を基盤とした学習（Inquiry-Based Learning）を授業やカリキュラムに導入していく必要があります。IBL は卒業論文のように長期的なものから、2 コマ程度で完結するような短期的なものもあります。探究学習は自律学習の理念型ですが、課題だけを与えて放任するだけではうまくいきません。IBL を構成する要素には、課題、問いづくり、目標、タイムスケジュール、プロジェクトマネジメント、評価がありますが、本セミナーでは、それぞれを適切に設定する方法について学びます。現在、探究学習に取り組んでいる教員、これから探究学習に取り組んでみたい教員にお勧めです。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> [✉tlsc@celas.osaka-u.ac.jp](mailto:tlsc@celas.osaka-u.ac.jp)》



30名
 2時間
 日本語
 対面

学習評価法

講師：佐藤浩章（全学教育推進機構 准教授）

豊中 11月12日 12:30-14:30
吹田 11月26日 12:30-14:30

〈キーワード〉評価、成績づけ、形成的評価、総括的评价

〈概要〉

学生の能力をいったいどのように評価したら良いのでしょうか。本セミナーでは、何を、いつ、どのように評価したら良いのかについて学びます。そして、伝統的なテストやレポートに加えて、ループリック評価、ポートフォリオ評価、コンセプトマップ、リフレクションシートといった新しいツールを使った評価法、また教員評価以外にも、自己評価・ピア評価など、学習成果を可視化する新しい評価方法について学びます。さらに剽窃等の学問的不誠実行為の防止法についても学びます。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> [✉tlsc@celas.osaka-u.ac.jp](mailto:tlsc@celas.osaka-u.ac.jp)》



30名
 2時間
 日本語
 対面

ループリック評価

講師：佐藤浩章（全学教育推進機構 准教授）
浦田悠（全学教育推進機構 特任講師）

豊中 11月12日 14:45-16:45
吹田 11月26日 14:45-16:45

〈キーワード〉ループリック、パフォーマンス評価

〈概要〉

1 枚目のレポートの採点基準と 50 枚目のそれがずれていると気になったことはありませんか？評価にかかる時間をもっと短縮できたと思ったことはありませんか？ループリックがそんな悩みを解決してくれます。ループリックとは、教育・学習成果の評価の厳密化と効率化を進めるために使われる評価ツールです。本セミナーではループリックの作成手続きと様々な事例を紹介しながら、自らの授業で活用できるループリックを実際に作成します。成績評価の厳密化と効率化を進めたい教員だけではなく、カリキュラム・プログラム評価に関心のある教職員、人事評価に関心のある教職員の方にも有用な内容です。（参加者は事前に送付されるファイルを取り込んだパソコンを持参ください。持参できない場合はパソコンを使わずに紙で作業もできます。）

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> [✉tlsc@celas.osaka-u.ac.jp](mailto:tlsc@celas.osaka-u.ac.jp)》



30名
 2時間
 日本語
 対面

研究室不登校の学生の心のケアについて

講師：川西利昌（日本大学 名誉教授）

吹田 11月15日 13:30-17:30

〈キーワード〉研究室不登校、心のケア

〈概要〉

講師のカウンセラーとしての臨床経験から、不登校学生の対応法についてご教授頂く。

《問合先：工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター（担当：根岸 講師）
[✉negishi@cryst.eei.eng.osaka-u.ac.jp](mailto:negishi@cryst.eei.eng.osaka-u.ac.jp)（根岸）[✉honma@ceids.osaka-u.ac.jp](mailto:honma@ceids.osaka-u.ac.jp)（本間）》

講義収録システム活用法

浦西友樹（サイバーメディアセンター 准教授）

浦田悠（全学教育推進機構 特任講師）

豊中 11月15日 16:20-17:50
吹田 12月11日 14:40-16:10

〈キーワード〉講義収録システム、アクティブラーニング

〈概要〉

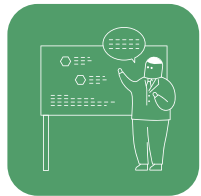
echo360 社のアクティブラーニングプラットフォーム（ALP）を用いれば、お手持ちのパソコンで手軽にビデオ教材を作成・配信することができ、予習や復習、補講のみならず、部局や研究室でのオンライン講習等にもご利用いただけます。また、ウェブカメラを使えば、パソコン画面と教員の顔や教室の映像の 2 画面を同時に収録することも可能です。本セミナーでは、ご自身のノートパソコンで実際に映像教材をつくりながら、授業での活用方法をご検討いただきます。※当日はノートパソコン（Windows もしくは Mac）をお持ちください。USB カメラは幾つか準備しておりますが、数が足りない場合はご容赦ください。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> [✉tlsc@celas.osaka-u.ac.jp](mailto:tlsc@celas.osaka-u.ac.jp)》



30名
 1.5時間
 日本語
 対面

- 定員
- 受講時間
- 使用言語
- 研修形式



教育能力 開発プログラム

シラバス作成法

講師：大山牧子（全学教育推進機構 助教）

【豊中】 11月29日 14:40-16:40

【吹田】 11月22日 14:40-16:40

〈キーワード〉シラバス、授業設計、目的、目標、スケジュール、評価

〈概要〉

シラバスは授業の設計図であり、授業の出発点です。そのシラバスの記載は十分に学生の学習を促すものになっているでしょうか。あるいは、国際社会で通用するものになっているでしょうか。外部評価においても、そして教員の個人業績評価においても、シラバスの重要性は高まっています。本セミナーでは、学生の自学自習を促すシラバス作成方法を身につけます。ぜひ新しいシラバスを使ってスタートしましょう。
※参加者はご自身のシラバス（どれか1つ）を持参ください（ご自身のシラバスがない方は、専門領域に近い科目等のシラバスを1つご持参ください）。

《問合せ先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎ <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> / ✉ tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名 2時間 日本語 対面

双方向型授業導入のための基礎

講師：平田オリザ（CO デザインセンター 特任教授）

【豊中】 1月10日 15:30-18:00

〈キーワード〉演劇、ワークショップ、アクティブラーニング、コミュニケーション、大学入試改革

〈概要〉

簡単なコミュニケーションゲームの実践と解説、およびその意味づけの講義。

《問合せ先：全学教育推進機構等事務部（CO デザインセンター総務担当）》
☎ <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> / ✉ yamada-t@office.osaka-u.ac.jp



40名 2.5時間 日本語 対面

自閉症スペクトラム障害ないし、 その傾向にある学生への対応について

講師：望月直人（キャンパスライフ健康支援センター 准教授）

【吹田】 2月4日 13:30-16:30

〈キーワード〉自閉症スペクトラム障害、教育指導

〈概要〉

自閉症スペクトラム障害の原因を理解し、運動療法によるその効果を知ること、教育現場で出来ることを模索する。

《問合せ先：工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター（担当：根岸 講師）》
✉ negishi@cryst.eei.eng.osaka-u.ac.jp（根岸） ✉ honma@ceids.osaka-u.ac.jp（本間）

30名 3時間 日本語 対面

iPad Café

講師：岩居弘樹（サイバーメディアセンター 教授）

【豊中】 原則として毎月第2木曜日16:30-18:00

〈キーワード〉mobile apps and devices、interactive classroom、collaborative learning

〈概要〉

携帯端末・タブレット端末を活用して、学生同士・学生と教員のインタラクティブな授業を実現していませんか。iPad Cafe は、iPad の活用方法、HALC（Handai Active Learning Classroom：iPad 教室）の使い方、アプリ紹介やトラブル対応の方法など、自由に語り合う場です。どなたでも参加いただけます。HALC 以外の教室でも iPad を使ってみたい、学生のモバイル端末を活用したいという方も歓迎です。

《問合せ先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎ <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> / ✉ tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名 1.5時間 日本語 対面

コンサルティングサービス

講師：全学教育推進機構教育学習支援部教員

【豊中】 随時 ※オンラインビデオチャット等でも対応可能

〈キーワード〉授業デザインのプロセス、学生の学習、教育内容、学習成果、教授法、学習評価

〈概要〉

授業デザインやシラバス、教授法、評価などに関する様々なご相談を承っております。お気軽にご連絡ください。

【ご相談例】

- ・授業中に質問しても学生の反応がない→ご要望に応じて、教室を訪問させていただき、学生から授業に対するコメントを聞き取ります。授業終了後に、コメントをもとに改善策を練るご支援をいたします。
- ・タブレット端末やスマートフォンを活用した授業をしたい→ICT 機器（タブレット端末、携帯端末等）の操作や設置の方法、授業での活用の仕方などのご提案をいたします。
- ・英語での講義を担当することになったが、不安である→英語で教えるための方法やテクニック等についての情報提供やお手伝いを行います。
- ・研究室をうまくマネジメントできない→研究室でのルールづくり、一年間の行事の設定など、プロジェクトマネジメントの手法を取り入れた研究室運営に関する情報提供や研究室教育に関するご支援をいたします。

《問合せ先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎ <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/> / ✉ tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》

未設定 1時間×1~3回 日本語 対面／オンライン

データ科学 in 情報活用基礎

講師：狩野裕（基礎工学研究科 システム創成専攻 教授）

朝倉暢彦（数理・データ科学教育研究センター 特任講師）

【豊中】 未定

〈キーワード〉ヒストグラム、散布図、PPDAC、調査実験のデザイン

〈概要〉

統計学・データ科学に関するいくつかの内容は中学校や高等学校で習います。しかし、それらをどのように活用するのかという最も重要な点が抜け落ちています。本 FD では、高等学校までの知識と大学初年度で履修する統計学 A,B,C とをスムーズにつなぐことを目的とし、そのための具体的な教材と教授方法を議論します。コンピュータによる戦略的グラフ描画（可視化）についても検討します。統計プログラムとして excel と R を利用します。

《問合せ先：数理・データ科学教育研究センター》 ✉ asakura@sigmath.es.osaka-u.ac.jp》



30名 1.5時間 日本語 対面

定員 受講時間 使用言語 研修形式

※掲載内容は8月17日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハ نداイ」（FD関係）にてご確認ください。



研究能力 開発プログラム

学術情報の迅速かつ
効率的な収集方法や
発信方法、厳守すべき
研究倫理など、研究を
行う上で必要な能力開発
を目指すプログラムです。

◎受講にあたり、特別
な配慮が必要な場合、
開催2週間前までに
ご連絡ください。
◎本プログラムへの
参加は「大阪大学FD
ポイント」に反映され
ます。ご自身のFDポイ
ントはCLE上で確認で
きます。(FDポイント
の確認方法はP.5 を
ご参照ください)

オンライン・リソースを活用した英語論文投稿セミナー

講師：外部講師(クラリベイト・アナリティクス社)

吹田 10月19日 14:40-16:10

〈キーワード〉Web of Science、論文

〈概要〉

英語論文の執筆準備を始め、Web of Science 等本学でも導入されているオンライン・リソースを活用し、投稿ジャーナルの選び方、効率の良い本文の書き進め方、引用論文の選び方、査読・リジェクト対策等について学びます。

《問合せ先：経営企画オフィス URA 部門、附属図書館》
✉ ura-training@lserp.osaka-u.ac.jp》

 120名
 1.5時間
 日本語
 対面

限定 産業科学研究所構成員のみ対象

研究倫理教育及び研究費不正使用防止に関する説明会

講師：菅沼克昭(産業科学研究所 教授)

沼尾正行(産業科学研究所 教授)

吹田 10月又は11月

〈キーワード〉研究倫理、研究費不正使用防止、コンプライアンス教育

〈概要〉

研究所長及び研究倫理担当教授による講義後、事務担当者からの補足説明も行います。

〈研修時間外に求められる課題〉

・CITI Japan e ラーニング講座（研究倫理教育）を受講する。

・公的研究費の取扱いに関する理解度チェック（コンプライアンス教育）を行う。

《問合せ先：産業科学研究所 総務課総務係》
✉ sanken-soumu-soumu@office.osaka-u.ac.jp》

 130名
 1.5時間
 日本語
 対面

限定 微生物病研究所構成員のみ対象

微研職員研修 1：Academic English for RIMD Researchers

講師：Dr. Neville Greening

吹田 11月12日、11月19日

〈キーワード〉研究成果の情報発信、Academic English、学会発表

〈概要〉

学会発表を模した模擬プレゼンテーションを行い、英語のネイティブスピーカーにチェックをうける。また、プレゼンテーションだけでなく、質疑応答も行い、英語によるコミュニケーションや対応のノウハウも学ぶ。

《問合せ先：微生物病研究所企画広報推進室》
✉ biken-pr@biken.osaka-u.ac.jp》

 20名
 1.5時間
 English
 対面

研究・教育の推進に資する図書館の利活用

講師：図書館職員

豊中 11月14日 14:40-16:10

〈キーワード〉図書館の利用、電子リソース、図書館施設、図書の購入・寄贈、雑誌の購読、機関リポジトリとオープンアクセス、教育・学習支援

〈概要〉

附属図書館が提供する情報サービス、図書館施設の利用方法等について、研究推進の観点、教育実施の観点から具体的事例を基に学びます。

《問合せ先：附属図書館 図書館企画課 企画係》
✉ kikaku@library.osaka-u.ac.jp <https://www.library.osaka-u.ac.jp/>》

 80名
 1.5時間
 日本語
 対面

限定 文学研究科構成員のみ対象

研究教育フォーラム (大阪大学文学部創立記念フォーラム 「文学部のチカラ、再発見。」)

講師：柏木隆雄(大阪大学名誉教授)

築山桂(小説家)

榎原美樹(NHKエグゼクティブ・プロデューサー)

豊中 11月23日 13:00-15:45

〈キーワード〉研究、教育、社会学連携

〈概要〉

本研究科の名誉教授および本研究科・学部出身の講師によるそれぞれの専門分野に関する研究発表や社会学連携活動の講演と座談会を行い、質疑応答を通じて理解を深める。また、今年度については、文学部70周年記念事業の一環として「社会学連携」をテーマに実施し、文学部・文学研究科で培った「専門知」「統合知」「共創知」を社会に還元するための社会活動の方策を習得する。

《問合せ先：文学研究科事務部 庶務係》
✉ bunsouhaku-syomu@office.osaka-u.ac.jp》

 約200名
 2.5時間
 日本語
 対面

限定 蛋白質研究所構成員のみ対象

蛋白研コロキウム

講師：各回により異なる

吹田 1月17日、3月14日（日程は変更となる可能性あり、時間未定）

〈キーワード〉蛋白質、構造生物学

〈概要〉

主に所内教員による専門分野に関する講演を開催します。年数回、場所は蛋白質研究所本館1階講堂で行います。若手研究者として大学院生も対象となる場合があります。

《問合せ先：蛋白質研究所 庶務係》
✉ tanpakuken-syomu@office.osaka-u.ac.jp》

 60名
 各回
0.5時間
程度
 日本語
 対面

An introduction to research funding schemes in Japan and research support at Osaka University (日本の研究助成金制度及び URA による研究支援)

Speaker：Mayumi Mochizuki (Associate Professor, Office of Management and Planning)

Xin Yao (Associate Professor, Office of Management and Planning)

Suita January

〈Keywords〉Research funding system in Japan, KAKENHI, research support, URA

〈Overview〉

Designed for international faculty who just started their research career in Osaka University, the training workshop begins with an overview of research funding schemes in Japan, with a focus on KAKENHI; introduction to research support by URAs in Osaka University, including funding application support, follows next; after that, basic techniques of grant writing are to be introduced.

《Contact：Research Management and Administration Section, Office of Management and Planning

✉ ura-training@lserp.osaka-u.ac.jp》

 30
 1.5h
 English
 face to
face
seminar

 定員

 受講時間

 使用言語

 研修形式

※掲載内容は8月17日
時点の情報です。最新
情報は各開催部局にお問
い合わせいただくか、学内
ポータルサイト「マイハ
ンダイ」(FD関係)にてご
確認ください。



研究能力 開発プログラム

限定 微生物病研究所、免疫学フロンティア研究センター、医学系研究科構成員のみ対象
アドバンストセミナー

講師：各回により異なる

吹田 毎月1回（3月を除く）16:00-17:00頃

〈キーワード〉感染症、免疫

〈概要〉

学外から招聘した感染症学・免疫学分野の第一線の研究者によるレクチャーを開催します。基本的に月1回、場所は微生物病研究所融合型生命科学総合研究棟で行います。本セミナーは大学院高度副プログラム及び医学系研究科単位認定セミナーであり、若手研究者としての大学院生も対象としています。

〈研修時間外に求められる課題〉

セミナー時間外に、招へい研究者と、ホストとなる研究室での研究交流会が開催される場合がある。

《問合せ先：微生物病研究所企画広報推進室》 ☒ suishin@biken.osaka-u.ac.jp 《



限定 微生物病研究所、免疫学フロンティア研究センター、医学系研究科構成員のみ対象
微研集談会

講師：各回により異なる

吹田 毎月1回第4火曜（1月を除く）16:00-17:00

〈キーワード〉感染症、免疫学、がん、ゲノム解析学

〈概要〉

微生物病研究所、IFReC に所属する若手教職員を中心に、最新の研究成果についての発表と、質疑応答を行います。本研究セミナーは医学系研究科単位認定セミナーでもあり、若手研究員としての大学院生教育目的も併せ持ちます。

〈研修時間外に求められる課題〉

発表担当者はスライド作成、質疑応答に対する対応など発表準備を行う。

《問合せ先：微生物病研究所企画広報推進室》 ☒ suishin@biken.osaka-u.ac.jp 《



研究を進めるにあたっての外部資金獲得および 本学における支援制度等について

講師：大屋知子（経営企画オフィス URA 部門 リサーチ・マネージャー）

吹田 未定

〈キーワード〉外部資金獲得、申請書作成、学内支援制度、URA

〈概要〉

研究を推進するための外部資金（研究費）の概要および外部資金の各種事業について説明するとともに、本学における外部資金獲得支援制度および URA による支援の紹介を行う。さらに、外部資金獲得に係る申請書作成における留意点等を解説する。

《問合せ先：経営企画オフィス URA 部門》 ☒ ohya@lserp.osaka-u.ac.jp 《



産学官民連携の協創まちづくりにおける大学の役割

講師：森栗茂一（CO デザインセンター 教授）

豊中 10月26日 16:30-18:00

〈キーワード〉産学官民連携、共創、まちづくり、エリアマネジメント、PBL、高度汎用力、副プログラム、コンソーシアム

〈概要〉

- 1、大阪大学の教育目標と産官学民連携の協創まちづくり
- 2、PBL など高度汎用力養成の教育
- 3、地域に生き世界に伸びる

《問合せ先：全学教育推進機構等事務部（CO デザインセンター総務担当）》
☒ http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/ ☒ yamada-t@office.osaka-u.ac.jp 《



研究・教育のアウトリーチ活動に おける大学博物館の活用

講師：伊藤謙（総合学術博物館 特任講師）

高橋京子（社会学創本部 准教授）

橋爪節也（社会学創本部 教授）

豊中 11月8日 13:00-14:30

〈キーワード〉アウトリーチ、大学博物館、研究、教育

〈概要〉

昨今、大学教職員の社会貢献の必要性が重要視され、教育や研究のアウトリーチ活動が必須となっている。本学では研究や教育のアウトリーチの場として、大学博物館を活用しており、その方法は展覧会、シンポジウム、ミュージアムレクチャーと多岐に渡る。本研修では、实例の見学を踏まえてメソッドや考え方を習得する。具体的には、博物館教員が代表者を務める日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究 (A) 16H05900 および基盤研究 (B) 17H02293 における研究成果のアウトリーチ活動の一環として開催する 2018 年秋季展覧会「人と鉱物－歴史からみる石の世界－(仮題)」を担当者の解説を交えながら見学し、実際のなアプローチについて講座を実施する。

《問合せ先：総合学術博物館・共創推進部社会学創課社会学創係》
☒ itoken@museum.osaka-u.ac.jp ☒ kyousou-syagaku-syakyuu@office.osaka-u.ac.jp 《



大阪大学の歴史

講師：菅真城（社会学創本部 教授）

豊中 11月27日 15:30-17:00

〈キーワード〉大阪大学、大阪帝国大学、大阪外国語大学

〈概要〉

前身諸学校を含む大阪大学の歴史について、重要トピックを取り上げ、時系列に学びます。また、歴史を明らかにするうえでの資料の重要性について学びます。

〈研修時間外に求められる課題〉

高杉英一・阿部武司・菅真城編著『大阪大学の歴史』（大阪大学出版会、2009 年）を読むことが望ましい。

《問合せ先：総務部総務課文書管理室》 ☒ souki-soumu-bunsyo@office.osaka-u.ac.jp 《



限定 産業科学研究所構成員のみ対象

プレスリリース講習会

講師：伊藤雄一（クリエイティブユニット 准教授）

吹田 1月予定

〈キーワード〉プレスリリースの作成法、ブランディング

〈概要〉

実例や簡単な例題をもとに、プレスリリースのポイントを学びます。

《問合せ先：産業科学研究所広報室》 ☒ kouhou-staff@sanken.osaka-u.ac.jp 《



定員

受講時間

使用言語

研修形式



社会学連携能力 開発プログラム

緒方洪庵が開いた適塾や大阪大学の歴史など本学への理解を深めるプログラムや、実社会と連携した教育や研究の進め方についてのプログラムです。

◎受講にあたり、特別な配慮が必要な場合、開催2週間前までにご連絡ください。
◎本プログラムへの参加は「大阪大学FDポイント」に反映されます。ご自身のFDポイントはCLE上で確認できます。（FDポイントの確認方法はP.5 をご参照ください）

※掲載内容は8月17日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハndaイ」(FD関係)にてご確認ください。

定員

受講時間

使用言語

研修形式



社会学連携能力 開発プログラム

新任教員向け適塾見学会 ～阪大の歴史を辿る～

講師：村田路人（文学研究科 文化形態論専攻 教授）
松永浩（適塾記念センター 准教授）



25名
3時間
日本語
対面

【その他】 大阪市中央区北浜近辺（適塾およびアイ・スポット）（日時未定）

〈キーワード〉 適塾、適塾見学会、映画、適塾記念センター、適塾記念会、阪大の歴史、適塾顕彰活動、精神的源流、文化財

〈概要〉

本学の教職員を対象として、『適塾と大阪大学の繋がり』に関する歴史的・精神認識や、適塾記念センター及び適塾記念会の顕彰事業の内容を啓発するために実施するもの。

【プログラム】

- ・新任教員向け適塾見学会～阪大の歴史を辿る～@適塾 90分
- ・映画『洪庵と1,000人の若ものたち』鑑賞及び解説@大阪市まちづくり情報発信施設「アイ・スポット」 75分

《問合せ先：共創推進部社会学共創課社会学共創係》
✉ kyouso-syagaku-syakyou@office.osaka-u.ac.jp

適塾から受け継ぐレガシー - 歴史・精神・文化財 -

講師：村田路人（文学研究科 文化形態論専攻 教授）
島田昌一（医学系研究科 医学専攻 教授）
松永浩（適塾記念センター 准教授）



40名
2.5時間
日本語
対面

【未定】 豊中又は吹田（日時未定）

〈キーワード〉 適塾、適塾記念センター、適塾記念会、阪大の歴史、適塾顕彰活動、精神的源流、文化財

〈概要〉

緒方洪庵が開いた適塾・除痘館から大阪大学につながる歴史的事実を確認し、洪庵・適塾の教育・研究から阪大に連なる精神的源流を見出し、阪大・適塾記念会が文化財として適塾の遺産をどう守り伝えて来たかを説明する。

【プログラム】

- ・適塾から大阪大学へ 45分・緒方洪庵・適塾の教育・研究 45分
- ・文化財としての適塾 松永 浩（適塾記念センター 准教授）45分

《問合せ先：共創推進部社会学共創課社会学共創係》
✉ kyouso-syagaku-syakyou@office.osaka-u.ac.jp

微研職員研修1： 研究成果の社会実装を考える

講師：各回により異なる

【吹田】 未定

〈キーワード〉 産学共創、産学連携、アントレプレナーシップ

〈概要〉

微生物病研究発ベンチャー企業関係者（技術顧問、CEO など）によるレクチャーおよび企業業務のブース展示を開催する。基本的に年2回、場所は微生物病研究所融合型生命科学総合研究棟で行う。

《問合せ先：微生物病研究所企画広報推進室》
✉ biken-pr@biken.osaka-u.ac.jp

80名
各回
3時間
日本語
対面

定員
受講時間
使用言語
研修形式

限定 工学研究科構成員のみ対象 コンプライアンス講習会

講師：青木伸一（工学研究科 地球総合工学専攻 教授）

【吹田】 10月10日 13:30-14:30

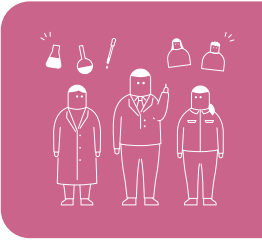
〈キーワード〉 コンプライアンス、公的研究費、不正使用防止

〈概要〉

工学研究科対象教職員および新任教員に対して 50分程度の講義ののち、質問を受け付ける。

《問合せ先：工学研究科コンプライアンス推進室》
✉ kou-soumu-compliance@office.osaka-u.ac.jp

250名
1時間
日本語
対面



マネジメント能力 開発プログラム

薬品や廃液の取扱など
安全衛生に関わる内容
や、各種コンプライア
ンスに関わる内容など、
組織の管理運営能力の
開発を目指すプログラ
ムです。

◎受講にあたり、特別な配慮が必要な場合、開催2週間前までにご連絡ください。
◎本プログラムへの参加は「大阪大学FDポイント」に反映されます。ご自身のFDポイントはCLE上で確認できます。（FDポイントの確認方法はP.5をご参照ください）

限定 文学研究科構成員のみ対象 平成30年度FD講演会・研修会

講師：森原 一郎（情報推進本部 特任教授（常勤））

【豊中】 10月11日 17:30-18:30

〈キーワード〉 情報管理、情報セキュリティ、暗号化ソフトウェア

〈概要〉

「情報管理の現状と課題」のテーマに関して本学情報推進本部 森原 一郎 特任教授（常勤）による講演を行い、以下の事項について教授いただき、質疑応答を通じて理解を深める。

①情報管理についての基礎的知識、②情報管理をめぐる環境の変化と課題、③情報管理に関する問題事案、④暗号化ソフトウェアとは何か

《問合せ先：文学研究科事務部 庶務係》
✉ bunsouhaku-syomu@office.osaka-u.ac.jp

約100名
1時間
日本語
対面



限定 蛋白質研究所構成員のみ対象 コンプライアンス講習会

講師：蛋白質研究所 会計係、研究支援係

【吹田】 10月～11月頃（日時未定）

〈キーワード〉 コンプライアンス、公的研究費、不正使用防止、教員発注制度

〈概要〉

不正使用防止計画推進室から提供されたコンプライアンス教育用教材等に基づき、部局におけるコンプライアンス教育の一つとして、公的研究費の運営・管理に関わる教職員向けに行います。

《問合せ先：蛋白質研究所 庶務係》
✉ tanpakuken-syomu@office.osaka-u.ac.jp

約60名
各回
1時間
程度
日本語
対面

非化学系のための化学薬品取扱講習

講師：山本仁（安全衛生管理部 教授）

【豊中】 11月12日 10:30-12:00

【吹田】 11月12日 13:00-14:30

〈キーワード〉 化学薬品

〈概要〉

非化学系（生物系・物理系）の研究分野で化学薬品を取り扱う教職員に対して、化学物質が危険性・有害性を有していること、管理の必要性、法規制、管理方法、危険有害性情報、法令情報の取得方法について学びます。

《問合せ先：安全衛生管理部 推進第一グループ》
✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp

約50名
1.5時間
日本語
対面

※掲載内容は8月17日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハント」(FD関係)にてご確認ください。

定員
受講時間
使用言語
研修形式



マネジメント能力 開発プログラム

高圧ガス・液体寒剤に関する安全講習 (低温センター豊中分室編)

講師：竹内徹也（低温センター 助教）

豊中 11月12日 13:00-14:30

〈キーワード〉高圧ガス、液体寒剤

〈概要〉

低温寒剤の安全な取扱い方と注意点及び低温センターの利用法について講習します。また高圧ガスや高圧ガスボンベの取扱いについて初歩的な講習を行います。

《問合先：安全衛生管理部推進第一グループ [✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp](mailto:anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp)》

 約50名  1.5時間  日本語  対面

大阪大学高圧ガス管理支援システム (OGCS) 利用講習

講師：中本将嗣（低温センター 助教）

豊中 11月14日 11:00-12:00

吹田 11月13日 14:40-15:40

〈キーワード〉高圧ガス管理支援システム (OGCS)

〈概要〉

高圧ガスを取り扱う教職員で大阪大学高圧ガス管理システム（OGCS）を使用する教職員が使用方法を習得する。

《問合先：安全衛生管理部推進第一グループ [✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp](mailto:anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp)》

 約50名  1時間  日本語  対面

電気コンセント・配線およびレーザー取扱いに関する 安全講習

講師：百瀬英毅（安全衛生管理部 准教授）

吹田 11月14日 11:00-12:00

〈キーワード〉電気コンセント、レーザー

〈概要〉

実験等で安全に電気・レーザーを取り扱うための基本事項を取得する。

《問合先：安全衛生管理部推進第一グループ [✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp](mailto:anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp)》

 約50名  1時間  日本語  対面

大阪大学薬品管理支援システム (OCCSⅢ) の利用について

講師：角井伸次（環境安全研究管理センター 准教授）

豊中 11月15日 13:30-14:30

吹田 11月14日 13:30-14:30

〈キーワード〉大阪大学薬品管理支援システム (OCCSⅢ)

〈概要〉

OCCS と関連する法令による規制についての理解を深める。また実験系廃液と排水についての管理や処理方法について研修します。

《問合先：安全衛生管理部推進第一グループ [✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp](mailto:anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp)》

 約50名  1時間  日本語  対面

実験系廃液・排水の取扱い

講師：角井伸次（環境安全研究管理センター 准教授）

豊中 11月15日 14:40-15:30

吹田 11月14日 14:40-15:30

〈キーワード〉実験系廃液・排水の取扱い

〈概要〉

実験系廃液の取扱いでは、実験室で生じる廃液の貯留区分や回収方法、注意点など危険な事例を含めて研修します。また実験系排水の取扱いでは、実験器具の洗浄方法・排水の規制項目や注意点、水質汚濁防止法の有害物質、管理要領・点検表、特定施設の届出などについて研修します。

《問合先：安全衛生管理部推進第一グループ [✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp](mailto:anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp)》

 約50名  0.83時間  日本語  対面

限定 言語文化研究科、マルチリンガル教育センター構成員のみ対象

言語文化研究科ハラスメント防止研修会

講師：濱田綾（ハラスメント相談室 専門相談員）

豊中 11月15日 14:40-15:40

〈キーワード〉ハラスメント防止

〈概要〉

ハラスメント防止に係る講演を行います。

《問合先：言語文化研究科・外国語学部豊中事務室総務係 [✉ genbun-soumu@office.osaka-u.ac.jp](mailto:genbun-soumu@office.osaka-u.ac.jp)》

 未設定  1時間  日本語  対面

限定 工学研究科構成員のみ対象

コンプライアンス講習会

講師：青木伸一（工学研究科 地球総合工学専攻 教授）

吹田 12月6日 13:30-14:30

〈キーワード〉コンプライアンス、公的研究費、不正使用防止

〈概要〉

工学研究科対象教職員および新任教員に対して 50 分程度の講義ののち、質問を受け付ける。

《問合先：工学研究科コンプライアンス推進室 [✉ kou-soumu-compliance@office.osaka-u.ac.jp](mailto:kou-soumu-compliance@office.osaka-u.ac.jp)》

 250名  1時間  日本語/
English
(逐次通訳)  対面

限定 文学研究科構成員のみ対象

ハラスメント問題対策のための研修会

講師：未定

豊中 12月

〈キーワード〉セクハラ、アカハラ、パワハラ、モラル・ハラスメント、SOGI、LGBT、オープンな教育・研究・職場環境

〈概要〉

ハラスメントの具体的な問題（セクハラ、パワハラ、性差別、SOGI など）に焦点を絞り、ふさわしい講師を招き、講演またはワークショップを実施し、質疑応答によって議論を深める。

《問合先：文学研究科事務部 庶務係 [✉ bunsouhaku-syomu@office.osaka-u.ac.jp](mailto:bunsouhaku-syomu@office.osaka-u.ac.jp)》

 100名  1時間
(予定)  日本語  対面

未定(障がい者問題に関するテーマの予定)

講師：未定

吹田 12月又は1月頃（日時未定）

〈キーワード〉人権問題、障がい者問題

〈概要〉

未定（障がい者問題に関するテーマで講演いただく予定）

《問合先：総務部総務課業務運営係 [✉ soumu-soumu-jimukaikaku@office.osaka-u.ac.jp](mailto:soumu-soumu-jimukaikaku@office.osaka-u.ac.jp)》

 100名  2時間  日本語  対面

 定員

 受講時間

 使用言語

 研修形式

※ 掲載内容は8月17日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハ نداイ」（FD関係）にてご確認ください。



マネジメント能力
開発プログラム

限定産業科学研究所構成員のみ対象

ハラスメント防止に関する講演会

講師：大阪大学ハラスメント相談室 専門相談員

吹田 2月下旬 14:00-15:30

〈キーワード〉ハラスメント防止

〈概要〉

講義形式やグループディスカッション等で実例をもとに学習します。

《 問合先：産業科学研究所総務課人事係 ✉ sanken-soumu-jinji@office.osaka-u.ac.jp 》



50名



1.5時間



日本語



対面

限定言語文化研究科・外国語学部構成員のみ対象

キャンパスハラスメントに関する研修会

講師：未定

箕面 未定

〈キーワード〉ハラスメント防止

〈概要〉

ハラスメント防止に係る講演を行います。

《 問合先：言語文化研究科・外国語学部箕面事務室庶務係 ✉ genbun-minoh-shomu@office.osaka-u.ac.jp 》



未設定



1時間



日本語



対面

限定蛋白質研究所構成員のみ対象

蛋白研防災安全講習会

講師：未定

吹田 未定

〈キーワード〉防災、消火訓練、安全管理

〈概要〉

学生・教職員を対象に防災などに関連する安全な取扱いに関する知識に基づく適切な管理方法を習得できる講習を行います。

《 問合先：蛋白質研究所 庶務係 ✉ tanpakuken-syomu@office.osaka-u.ac.jp 》



約60名



1時間
程度



日本語



対面

※掲載内容は8月17日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハantai」（FD関係）にてご確認ください。



定員



受講時間



使用言語



研修形式

希望する受講プログラム

受講済 ✓	開催日	研修項目	カテゴリ	時間数	備考
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	
	/		・教育 ・社会学連携 ・研究 ・マネジメント	h	